

単元名	俳句を作って楽しもう		7 時間
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> 俳句の特徴（きまり、凝縮された言葉の美、事象への視点）を前向きにとらえる。 豊かな表現活動として俳句を創作し、鑑賞を通じて言葉の多様性にふれる。 		
日本語の目標	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を選ぶ、工夫するプロセスを前向きにとらえ、自分ごととして体験する。 		
学習課題			
主な学習活動	教科書 p 70-75 のグループ活動を通しての理解と創作活動。		
評価の観点	<p>グループ活動で前向きに取り組んだか。</p> <p>表現活動に前向きに取り組み、作品を完成させたか。</p>		

学習活動計画

時	内容	活動	ポイント
1 2	教科書「俳句の可能性」の学習	<p>俳句の基本的きまりと5つの俳句についてを、教科書の記述をたどりながら確認する。</p> <p>俳句の世界に触れる、感動や言葉の伝え方（省略の美や物や事象への視点の向け方に触れる）</p> <p>グループで話し合いまとめ、発表する。</p> <p>いつ、どこで、だれが、どのように、どうした（どう感じた）、この俳句の特徴、簡単なイラスト（または、簡単に俳句の読まれた情景を別の言葉で表す、など）。</p>	<p>創作、言語活動を最終目標とする心づもりをさせる。＊最終型の提示。</p> <p>「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」に注目させる。</p> <p>発表の役割（俳句を読む、内容を発表する、内容を白板に書く、言葉やイラストを書く）を決め、一人一役担当する。</p>
	家庭学習課題	ワークブック（「俳句の可能性」）	
3 4	教科書「俳句を味わう」の学習	<p>本文を読み、それぞれの俳句に簡単に触れ、親しみを持つ。</p> <p>9句の音読を通し、一行ほどの概要を板書していく。</p> <p>創作への意識を高める。</p> <p>グループ学習</p> <p>3人のグループを作り、9句の中から気に入った俳句について意見を交換する。</p> <p>話し合いの後、各自鑑賞のメモ書きをする。（または、簡単な鑑賞文の作成。）</p>	<p>自分ごととして、自然や事象に目を向ける。</p> <p>どのような内容の俳句か、なぜ気に入ったか、他者の意見を聞き、自分も同様の経験があるか、など。</p> <p>鑑賞文はひな形を提示。</p>
	家庭学習課題	ワークブック p 48-51	

5	「俳句を作って楽しむ」の学習	<p>創作俳句の構想を練る。 グループ学習（一時帰国で感じた日本のことも想起してもよい。現代俳句の提示、写真などの提示などを通して、何を表現するか の心づもりをする。）</p> <p>4人グループで、俳句にしたい文、イメージをグループで集める。 歳時記ふうに、グループで自由に言葉をあげたり、まとめたりする。 (プリントにまとめ、回収)</p>	<p>本文 p 70-74 の本文中の「私たちの身近なものばかり」「目を留めたものに『こんにちは。』という挨拶の気持ち」「気に入った風景をカメラで撮るような感覚」に留意させる。</p> <p>* 10/1 の活動内容とルールを提示。</p>
家庭学習課題		ワークブック p 44-45「季語と出会う」	
6 7	創作俳句活動 (研究授業)	<p>前時に集めた言葉、イメージをグループごとに発表する。</p> <p>グループで2から3句、連句を作る。</p> <p>15分ほどグループ活動の時間とし、制限時間後に白板に貼り、発表する。</p> <p>全グループの連句の良いところ、気を付けた方がいいところ（前向きな生徒による相互批評の機会）の意見を交換し、講師が白板にまとめる。</p> <p>創作俳句の制作。歳時記風のグループ連句を参考に、俳句の創作。</p> <p>制作の最後に「俳句を短冊に書く」。体裁、用紙、歴史的背景をPPTにて簡単に説明。</p> <p>制作作品の発表。（次週も継続。）</p>	<p>クラス全体が言葉やイメージを膨らませることができるような雰囲気を作る。</p> <p>ルール：前回の歳時記風の構想を生かすこと。全員が五、七のいずれかに参加することを条件とする。小さな紙に、五または七の言葉を一人一人書き、つなげるようにする。シャーピーなどの黒ペンを用意し、使う。</p> <p>作った連句のテーマを述べることも心づもりをさせる。</p> <p>発表のルール＝グループ全員が前に立ち、自分の担当の句を詠む。リーダーが句の趣をまとめる。</p> <p>9/10に提示した最終型の再提示。</p> <p>二人で創作したい生徒は認め、複数作品の創作とする。連句を参考にしたり、一部を使ってもよい。</p> <p>短冊（35×6.5センチの短冊要旨）</p> <p>グループ内、または学級全体で発表・鑑賞。</p>
家庭学習課題		完成していない生徒は完成させる。 作品をグーグルクラスルームまたは Padlet に載せ、感想・鑑賞を課題とする。	